

平成19年度 第1回鎌ヶ谷市文化財審議会会議録

1. 開催日時 平成19年5月23日（水曜日）10時00分～11時30分
2. 開催場所 市役所3階 303会議室
3. 出席者
(1)委員：下津谷委員・新山委員・小川委員・佐藤委員・石神委員
(2)市側：川西教育長・吉村部長・松永課長・飯田室長・犬塚副主幹・三石

委嘱状交付式

会議に先立ち川西教育長より各委員へ委嘱状の交付がされた。

4月の組織変更による名称の変更報告を行った後、事務局、委員の紹介を行った。

4. 教育長あいさつ
5. 正、副委員長選出
鎌ヶ谷市文化財審議会条例第4条により選出。
委員からの推薦により下津谷委員を委員長、新山委員を副委員長とすることに決定。
6. 委員長あいさつ
7. 副委員長あいさつ
8. 議題等

【報告事項】

- (1) 平成18年度文化財保護主要事業について（報告）
事務局より資料に沿って報告
特に意見なし
- (2) 平成19年度文化財保護主要事業について（報告）
事務局より資料に沿って報告
委員C：市指定文化財の報償が増えたのはよい。説明看板は三橋家墓地の看板がわかりにくい位置にあるので、建て直すのであれば設置位置の検討をお願いしたい。
事務局：建替え及び設置場所については所有者の方の意向を伺いながら検討したい。
委員A：中野牧の公有地取得であるが、これは19年度で終了するものなのか。
事務局：地方債を活用した取得を行う計画で、予算的には所有者への支払いは今年度の中で行う予定である。平成20年度から10ヵ年の国庫補助事業としての償還を予定している。その件について文化庁とのヒアリングも受ける予定している。
委員A：土地の鑑定はいつ行うのか
事務局：事業実施は用地取得の申請が下りてからでないとできないので、正式な鑑定はそれからになる。
- (3) 国史跡下総小金中野牧跡関係
①国指定に伴う県、市指定地について ②捕込の仮設柵の設置について ③説明看板の付け替えについて ④リーフレットの作成について
事務局より資料に沿って報告

委員C：捕込の清掃であるが、地域の方々に働きかけて関心をもってもらうと、自発的なボランティア活動のようなものができて、地域が中心となって草刈やゴミ拾いが定期的に行われるなど、史跡が自分たちのものだという意識を高まってくるのではないかと。保存管理計画策定委員会もあるが、そうした部分も考えていただきたい。そこから文化財が身近なものであるという位置づけが自然に出てくるのではないかと。以上参考までに申し上げます。

事務局：国指定後、隣接する家々に指定の報告を兼ね挨拶に伺ったが、好意的に受けとめていただいている印象であった。現在は、先ほど報告したように仮柵を設置していますが地元の方々に清掃、除草をしたいという声もいただいた。またそれとともにNPOを立ち上げるといった話もうかがっている。今年、来年と保存管理計画を作っていくわけではありますが、この計画に基づき次の事業に移るには最低2年、3年かかり、その間の清掃管理は地元、NPOと協働という形で是非進めさせていただきたいと思っている。

委員A：地元で協力いただくのは結構なことだと思う。

(4) 国史跡下総小金中野牧跡保存管理計画策定方針について

事務局より資料に沿って報告

委員C：庁内検討委員会は縦割りではなく、横の繋がりで構成されているのが良いと感じた。小金中野牧跡の何を保存するのか。単なる保存管理に終わらないようにして欲しいと思う。残念ながらこれまで史跡の管理といえば看板だけといった多く例を見てきている。国レベルの文化財ならそうしたことはないと思うが、生涯学習の一環としてとしては市内の文化財を廻る散策コースを作り、それを投げかけるだけでなく、まずは事業としてPRしていただきたい。歴史教育的な立場でいうと、学校教育現場係るかそうでないかは大きく違う。定期的にその資料を毎年その学年になると見学して学習する。鎌ヶ谷であれば捕込を見学して江戸時代の人のくらしと牧の関係を定期的に学習する。学芸員と現場教師とで教案を作り子ども達に考えさせるといった地元文化財の教材活用も考えていただきたい。それが強いては文化財を通じた郷土愛の裾野を広げることになる。単なる管理に終わらせたくないと思った。

事務局：ご意見ありがとうございます。「保存管理計画策定方針」に沿って説明させていただきたいと思っております。3の計画の主な内容は大枠として2つあります。1点目はいかに保存し管理していくかでありますが、これが基本方針及び構想ということになります。2点目は公開、活用を前提とした整備構想がいかにあるべきかということも計画の中でも非常に大事な部分です。この2本の柱の中でご指摘のところは考えていきたいと思っております。またそのためにも庁内組織として幅広く関係部署に呼びかけて検討委員会を設置しました。理想としてはまちづくりのひとつとして発展できればと考えております。

委員C：ぜひモデルとなるように機能していただければと思います。

事務局：もう1点、昨年11月に答申が出て以降、暫定版のリーフレットを作成してまいりましたが、市民対象の会議があるごとに配布をしてまいりました。

知っていただくことが大事だと思い、事あるごとに広報だけでなくこうした史跡があると周知をしてまいりました。校長会などにも学習教材として活用していただくよう、お願いしています。鎌ヶ谷市の生涯学習をすすめていくうえで活用していただくシステムのうち、市職員を講師派遣する事業にも下総小金中野牧跡の説明メニューも追加用意し、派遣する準備も整っております。課、資料館職員ともに対応できるようになっており、先日既にそのメニューで職員を公民館に派遣をしたところでございます。

また、学校教育の関係であります但社会科の副教材の見直しが来年度予定されているので、下総小金中野牧跡の件を入れていただくよう話を進めているところです。こうした大きな事業ですので活用を十分に図っていきたいと考えております。

委員C：他の例でも学校教育と結びついたところが、長期に継続しているようですので、保存整備が単発に終わらない方法をとっていただきたい。

委員A：策定体制を見ると、往々にして教育委員会が中心で行ってしまうことが多いが、幅広く行っているところがよい。意気込みが見えてくる。またもうひとつ気になるのは、史跡整備は作った時はよいがそれが長続きしないことがある。そうしたことにならないように努力していただきたい。

策定委員会の中で公募委員とあるがこの募集方法は市内の人かあるいはもっと広い範囲で募るのか。

事務局：市民委員として考えている。公募の方法は市のシステムがあり、それに則って進めていきたい。

委員E：公募委員や市民参加を求める以上は方法というより活動としてしなければならないので、資料館などで捕込や牧の見学会をこうした公募を行う前に企画して、先ずは見ていただくという機会を設けるということは考えているのか。

事務局：7月14日から16日に千葉県北西部地区の文化財発表会が鎌ヶ谷を会場として行われる予定で、16日に行う発表会の日には捕込の見学ツアーを計画していますので、広く市民の方々にも参加していただけるよう、これについては市の広報に記事を掲載する予定です。

(5) 第1回国史跡下総小金中野牧跡保存管理計画検討委員会について

事務局より資料に沿って報告

委員A：検討委員会で配布した他部署に関連する法令、基本計画等との調整事項についての調査票は現在回収中なのか。

事務局：そうである。

【協議事項】

(1) 国指定史跡下総小金中野牧跡保存管理計画策定委員会委員について

事務局：保存管理計画策定委員会設置要綱は5月29日に実施される定例教育委員会に上程するため、まだ案の段階であるが、文化財審議会からも策定委員会へ委員として1名推薦いただきたい。

委員A：公募委員とあるが地主は入らないのか。地主が入ることによって都合の良いこともあるが。

事務局：用地取得後になるので、広く公募でよいかと考えた。

委員C：学校などは用地を提供した方を行事あるごとに招待などを行っている。そうしたものと同じく感謝の気持ちをどこかで表現できないものだろうか。

委員A：会議はどの位の頻度で行われるものなのか。

事務局：2年間で6回を予定している。

委員C：このような場合は地元の委員か委員長がよいと思うが。

委員D：新山委員はどうか。

委員A：新山委員を推薦したい。土地勘があり、地元の人なので人のつながりがあると思う。公募で市民が入るからなおさら良いのではないか。こうした場合、委員長が出ることは多いが、今回はそれにこだわらなくてもよいのではないか。

委員B：土手そのものではなく、その歴史を物語る植生はわかるのだが。

委員A：策定委員会ではそうした知識も必要とされると思うので新山委員が最適と思う。

委員D：文化財審議会としても全面的にバックアップはしていきたいと思っている。

委員B：それでは引き受けさせていただきたいと思う

(一同承認：下総小金中野牧跡保存管理計画策定委員会が設置された際は文化財審議会としては新山委員を推薦することとなった。)

会議終了

以上会議の経過を記載し、間違いがないことを証するため、次に署名する。

平成19年5月30日

署名人 佐藤 武雄 ㊟